



Title	序
Author(s)	高倉, 新一郎
Description	小林巳智次の肖像あり
Citation	法経會論叢, 14
Issue Date	1955-10
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/11295">https://hdl.handle.net/2115/11295</a>
Type	other
File Information	14.pdf





小林巳智次先生

## 序

北海道大学教授農学博士小林巳智次先生が大正十年東京帝国大学法学部政治学科を卒業され、直ちに北海道帝国大学の切なる要望に応えて農学部講師として赴任されてから、既に三十有余年の歳月が流れた。その間我国に於て全く新しい分野である農林法学の建設に精進され、その講座の最初の担当者として基礎確立に努力し、多くの逸材を育成されたばかりでなく、当時理科学系統のみの大学であつた中に唯一の法律専門家として、学校行政の運営に適切な忠言を与えられ、昭和二十七年、法学部が設置せらるるや、設置準備委員の一人として尽力し、やがて籍を其学部に移し、現に法学部長として同学部建設途上に横はる多くの案件の解決に挺身せられつつある。更に北海道地方労働委員会長、農地委員会委員其他の新しい機構には必ず参加して、その蘊蓄を傾けて指導に当られた功績は偉大なものがある。殊に専門の農業法学に於ては他に追従を許さぬ権威者であり、所謂社会法学の広い立場から斯学の建設に努力され、多くの論著を発表された。「農業法研究」(昭和十二年発行)は、そうした努力の結晶で

ある。詩味豊かな麗筆は、示唆に富む内容と共に我々が推服おく能はざるものがあつた。又本学会の設立は主として先生の提唱によるところであり、その運営育成にも多大の力を致され、殆んど毎号執筆されてゐる。私共、先生の後塵を拜する者は、何時の日か先生の学恩に報ゆる機会のあることを期してゐたが、今貧弱乍ら先生の生み育てられた本誌のこの号を、先生在職三十五年記念号として些かその微意を表したいと思う。内容は多岐に亘るが、先生の学風の然らしむるところであり、何れも先生の多年の薰陶に反かざらんことを期した。執筆者一同の志を汲んでいたゞければ、この上もない幸である。

この機会に更に先生の学運の益々盛ならんことを祈る。

昭和三十年十月

高 倉 新 一 郎